

政争が解決するも先行き不透明なガイアナの探鉱・開発

(出所:LatAmOil、Platts Oilgram News、International Oil Daily、BNamericas 他)

1. ガイアナでは、2020年3月2日に総選挙が実施され、Granger 大統領率いる与党連合 APNU+AFC が勝利宣言をしたものの、野党 PPP が開票に不正があったと主張、正式な選挙結果が出ないままの状況が続いていた。8月2日に選挙管理委員会が野党の勝利を発表し、PPPの大統領候補 Irfaan Ali 氏が大統領に就任した。選挙結果が出ないため、政治が安定せずに、石油開発が遅延するのではないかと懸念されていたが、その懸念は払拭された。
2. ExxonMobil は沖合 Stabroek 鉱区でこれまでに掘削した 18 坑で石油を確認し、同鉱区の可採埋蔵量は 80 億 bbl 以上とされている。2019 年 12 月に生産を開始した同鉱区の Liza 油田は、ガス圧入機材に技術的な問題が発生し、2020 年 6 月と 8 月に一時的な生産削減を余儀なくされた。Liza 油田開発第 2 フェーズは予定通り進められているものの、Stabroek 鉱区の第 3 フェーズ、Payara 油田の開発は Irfaan Ali 新政権の承認待ちの状況となっている。Stabroek 鉱区以外では、ExxonMobil が Kaieteur 鉱区での掘削を開始、Eco Atlantic が Orinduik 鉱区で 2021 年に少なくとも探鉱井 2 坑を掘削予定と探鉱が進展する鉱区もあるが、Tullow Oil が 2020 年にはガイアナ沖で掘削を行う計画はないと表明する等原油価格下落や COVID-19 の影響を受けるプロジェクトもある。
3. Irfaan Ali 政権の探鉱・開発政策はまだ明らかになっていないが、ExxonMobil 以外の企業との契約についての調査や再交渉、国内調達比率の引き上げ、石油産業を監督する政府機関の再編成などが検討されているようだ。

1.総選挙の結果をめぐる政争が決着

ガイアナでは 2018 年 12 月 21 日に国会で David Granger 政権に対する不信任案が成立したが、Granger 政権がこれを受け入れず、ガイアナの最高裁にあたるカリブ共同体の司法機関、カリブ司法裁判所(Caribbean Court of Justice:CCJ、トリニダード・トバゴ)でこの不信任決議についての審理が行われた。2019 年 6 月に CCJ はこの不信任案は有効であると判断し、2020 年 3 月 2 日に総選挙が実施された。一旦は Granger 大統領率いる国民統一連携党(APNU)を中心とする与党連合 APNU+AFC が勝利宣言をしたものの、野党、人民進歩党(People's Progressive Party、PPP)側が開票に不正があったと主張、米国や英国、欧州連合(EU)なども、開票結果の信頼性に疑問があると共同声明を出した。さらに、選挙監

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

視団を派遣していたカリブ共同体(CARICOM)や米州機構(OAS)もこれに同調した。これを受け、票の再集計と裁判が繰り返されたが、正式な選挙結果が出されず、反政府抗議行動が頻発していた。

ようやく8月2日に、ガイアナの選挙管理委員会(GECOM)は先の総選挙の開票に不正があったことを認め、野党の勝利を発表し、PPPの大統領候補であるIrfaan Ali元住宅相(40歳)が大統領に就任した。退任が決まったGranger氏は、選挙管理委員会の発表を合法的な結果として尊重すると述べた。一方、Ali新大統領はPPP党首であるBharrat Jagdeo前大統領を副大統領に指名した。

選挙結果をめぐる混乱から、政治が安定せず、石油開発が遅延する可能性が懸念されていたが、2018年末から続いていた政治的な行き詰まりが解消されたことで、ひとまずその懸念が払拭されることになった。

2. ガイアナの探鉱・開発状況

Stabroek鉱区を中心に油田発見が続き、Liza油田が発見後4年半で生産を開始するなど、ガイアナでの探鉱・開発は順調に進んできた。しかし、2020年に入り、新型コロナウイルス感染拡大による需要の減少や原油価格下落、ガイアナ国内の政治状況等に影響を受け、探鉱・開発作業が遅延の傾向にある。

(1) Stabroek 鉱区での探鉱状況

ExxonMobilは2015年5月に沖合Stabroek鉱区で掘削したLiza-1号井で石油を確認したのを手始めに、2019年末までの段階で同鉱区に掘削した15の坑井で油層を確認した。同社は、油層確認、評価に伴い、同鉱区の可採埋蔵量を2018年12月に50億bbl、2019年3月に55億bbl、7月に60億bbl、9月には60億bbl以上と上方修正してきた。そして、2020年1月には、2019年9月と12月に掘削を終了したTripletail-1号井とMako-1号井の評価を行った結果、同鉱区の可採埋蔵量が80億boe以上であると発表した。

さらに、2020年1月にはExxonMobilが、Liza油田北東16km、水深1,933mの海域でドリルシップNoble Tom Maddenを用い掘削した探鉱井Uaru-1号井で29mの砂岩の油層を確認したと発表した。

そして、7月には、ExxonMobilのパートナーであるHessが、ドリルシップStena Carronを用いStabroek鉱区の、2019年4月に原油が確認されたYellowtail-1号井の南東1.6kmの海域で掘削したYellowtail-2号井でも高品質の油層を確認したことを明らかにした。またExxonMobilでも、COVID-19の影響で掘削作業が滞るなどの遅延が一時発生したが、6月末には作業を再開したこと、またドリルシップNoble Don Taylorが7月中旬に同鉱区に到着し、2か月をかけてRedtail-1号井を掘削予定であること、そして、同

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

鉦区全体でドリルシップ 4 隻が作業中であることなどを明らかにした。

9月8日、ExxonMobilは、Stabroek 鉦区で掘削した Yellowtail-2 号井および Redtail-1 号井で、Uaru-1 号井に続く同鉦区で 17 番目、18 番目の原油埋蔵を確認したと発表した。Yellowtail-2 号井では、ネットペイ 21m の砂岩の油層が確認された。周辺で発見された油田との共同開発が可能かどうかを評価中であるという。また、Yellowtail-1 号井の北西 2.5km、水深 1,878m の海域で掘削された Redtail-1 号井では、70m の砂岩の油層が確認された。両井は Tripletail (2019 年 9 月発表)、Longtail (2018 年 6 月発表) 等を含む Stabroek 鉦区南東部のクラスターの一部で、Apache が 3 坑井で炭化水素を確認したスリナムの Block 58 にも近い。

Stabroek 鉦区では 2019 年末までに掘削された 15 坑、そして 2020 年に掘削された 3 坑を加え、合計 18 坑で油層が確認されたことになるが、Hess は同鉦区にはさらに多くの炭化水素資源が賦存している可能性を確信しているとしている。同社によると、Stabroek 鉦区の貯留層の質は非常に良好であるため、生産量単位あたりの開発コストは低く、追加探鉦ポテンシャルも非常に大きいという。また、Credit Suisse のアナリスト Bill Featherston 氏は、Uaru-1 号井の結果発表後、同鉦区内には他にも 25 の構造があり、埋蔵量はさらに追加される可能性があると言った。

なお、Stabroek 鉦区の権保有益比率は、ExxonMobil (オペレーター) 45%、Hess 30%、CNOOC 25%となっている。

(2) 先行開発が進む Liza 油田の生産状況

ExxonMobil は 2019 年 12 月に、ガイアナ沖合 190 キロメートルに位置する Stabroek 鉦区、Liza 油田の生産を開始した。Liza 油田の石油生産量は 12 月が 35,607b/d、2020 年 1 月が 56,320b/d と増加し、その後も浮体式石油・ガス生産貯蔵積出設備 (Floating Production, Storage and Offloading system: FPSO) Liza Destiny の生産能力 12 万 b/d まで生産量を引き上げるべく、ランプアップ作業が行われていた。

2020 年 1 月中旬には、ExxonMobil がチャーターしたタンカー Yannis P (積載可能量約 945,000bbl) がガイアナに到着して FPSO からの原油積載が行われた。Liza 原油 (API 比重 32.1 度) 約 100 万 bbl が出荷され、これがガイアナ初の原油輸出となった。また、少なくとも政府引取分の原油は Brent 原油のスポット価格に基づいて販売されているようであり、最初の 3 カーゴは積載日確定後の Brent 原油のスポット価格に基づいた価格で Shell に売却されたと報じられている。

しかし、3 月になると、Stabroek 鉦区での掘削は継続されたものの、COVID-19 の影響で関係者のガイ

Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉦物資源機構 (以下「機構」) 調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

アナ現地出張が制限されるなど、開発遅延のリスクが伝えられるようになった。パートナーの Hess が、2020 年の設備投資を当初計画よりも 25%削減し 22 億ドルとすると発表したが、ガイアナでの探鉱、評価、開発は継続すると表明したのもこの時期である。

6 月には、ガイアナの環境保護庁 (Environmental Protection Agency: EPA) が、Liza 油田でガス圧入機材に技術的な問題が発生し、8 万 b/d まで増加していた石油生産量が 2.5~3 万 b/d に減少していることを明らかにした。ガイアナ EPA はフレア可能なガスの量を 15MMcf/d と定めているのだが、COVID-19 感染拡大防止のため、ガス圧入機材修理のためのメンテナンスチームを派遣することができず、フレア量を制限内に抑えるためには生産量を制限せざるを得なかったのである。この状況により、6 月中旬までに FPSO Liza Destiny の生産量を 12 万 b/d まで引き上げるという ExxonMobil の当初の計画を達成することは困難となったと見られた。

しかし、その直後、ExxonMobil は、Liza 油田の生産減退はプロジェクト開始時の一時的なもので、圧入機材の修理を速やかに終え、生産量も今後数週間のうちに FPSO の生産能力上限の 12 万 b/d に達する見通しであると発表した。実際、ExxonMobil は 6 月中旬までには Liza 油田の 3 基のコンプレッサーのうち 2 基を復旧させ、ガス再圧入を再開、フレアされるガスの量も 15MMcf/d 以内に抑えつつ、生産量を 8 万 b/d に戻すことが可能になった。Hess も 6 月中旬に、2020 年下半期には FPSO Liza Destiny の生産能力の 12 万 b/d まで生産量が増加するとした。また、ExxonMobil の Chapman 上級副社長は 7 月に、Liza 油田の生産量は 2020 年第 2 四半期に FPSO のフル生産能力 12 万 b/d を「実証」したと述べている¹。

また、ExxonMobil は 6 月に COVID-19 感染拡大防止のため中断していたガイアナ沖での掘削作業も再開した。Baker Hughes によると、ドリルシップ 4 隻のうち 2 隻が作業に戻った。

ところが、EPA は 8 月 21 日、ガスの再圧入の問題が再び深刻化して、ExxonMobil が Stabroek 鉱区の生産量を 10 万 b/d に制限していることを明らかにした。これまでも述べたとおり、ExxonMobil は、早期に FPSO の生産能力上限 12 万 b/d まで生産量を引き上げる予定だったが、再度、ガス圧入装置の機械的な問題により、全ての随伴ガスを再圧入することができないため、ガスのフレアを抑えるために、生産量を制限しているという。生産状況について、その後報道はない。

1

<https://www.reuters.com/article/us-guyana-oil-exxonmobil/exxon-limits-guyana-crude-output-due-to-more-gas-injection-issues-idUSKBN25H2N7>

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。

(3) Stabroek 鉱区の開発状況

2020年初までは、Liza油田の開発第2フェーズで使用されるFPSO Liza Unity(生産能力22万b/d)は建造中で、2022年中頃に生産を開始する予定であり、また2019年末に政府に開発計画を提出し承認待ちの状態となっているStabroek 鉱区の開発第3フェーズ、Payara油田の生産(生産能力22万b/d)は2023年に開始する計画とされていた。

2020年3月にはHessが、Liza油田開発第2フェーズは計画よりも早く進められており、2022年中頃としていた生産開始は2021年第4四半期末か、2022年初めになる可能性があるとしていた。

ところが4月になると、ExxonMobilがCOVID-19の拡散により2020年の資本支出を約30%削減すると発表した。そして、ガイアナに関しては、Liza油田開発第1、第2フェーズについては予定通り実施するものの、Payara油田の開発については、選挙をめぐる問題から承認が遅れていることもあり、6か月から1年の遅れが生じるとした。

さらに、5月に入ると、ExxonMobilのCEO、Woods氏が、ガイアナは引き続き同社の長期的な成長計画の不可欠な部分であるが、政治の先行きの不確実性とCOVID-19感染拡大防止ため作業員のローテーションに問題が生じた結果、Stabroek 鉱区の開発計画全体が6か月から1年遅れることになることと語った。ExxonMobilは、Stabroek 鉱区で2025年に75万b/dを生産する計画であったが、この判断により75万b/d生産の達成時期も2026年に先送りされることになった。

冒頭説明したとおり、8月に、David Granger前大統領に代わりMohamed Irfaan Ali氏が大統領に就任することになり、速やかにPayara油田の開発が承認されることが期待された。ところが、Irfaan Ali大統領は、このプロジェクトを承認する前に「副大統領に依頼し、様々な利害関係者との会議を開催し、これまでに行われてきたプロセスの見直しを行う。そのために、国際的な専門家を雇用し調査を行わせる」と述べた。そして、英国を拠点とするコンサルタント会社Bayphaseが作成した資料を、カナダの専門家チームにさらに見直しさせているという。一方のExxonMobilは、9月中にPayara開発を進めるかどうかを決定したいと考えているという。

なお、ExxonMobilは3月に、Stabroek 鉱区の4件目の開発となるHammerhead油田の開発計画をEPAに提出した。Liza油田開発第1、第2フェーズ、Payara油田開発と類似した計画で、2022年より開発井の掘削を開始し、26~30坑の坑井を掘削、石油生産能力15~19万b/d、貯蔵能力160~200万bblのFPSOを用いて2024年中ごろに生産を開始するという内容になっている。生産期間は20年を予定している。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。



図 1.ガイアナおよびスリナム鉱区図

(各種資料を基に作成)

(4) Stabroek 以外の鉱区の探鉱状況

ExxonMobil は 2020 年 2 月に、同年中に Stabroek 鉱区の東に隣接する Canje 鉱区で掘削を行う計画であることを明らかにした。ExxonMobil は Stabroek 鉱区の北に隣接する Kaieteur 鉱区でも掘削を計画しているが、2020 年に掘削を行わない可能性もあるとしていた。ところが、ExxonMobil は 8 月にドリルシップ Stena Carron により Kaieteur 鉱区の水深 2,900m の海域で Tanager-1 号井の掘削を開始したと報じられている。掘削長は 8,000m の予定であり、約 90 日かかると見られている。

また、Corentyne 鉱区と Demerara 鉱区でオペレーターを務めるカナダ企業、CGX Energy は 5 月に、新型コロナウイルスのパンデミックの影響で人員の入れ替え等ができないため、両鉱区での作業に影響が生じ、掘削が遅れる可能性があることを明らかにした。CGX Energy は 2020 年 11 月に Utakwaaka-1

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

号井を掘削する計画だったが、政府と代替案について協議を行っているとも報じられている。CGX Energy は従業員の健康と安全を守るため事務所を閉鎖し、カナダ、ガイアナ、米国の自宅で勤務ができるよう調整を行ったという。Corentyne 鉱区と Demerara 鉱区の権益 33.33% を 2019 年 5 月に CGX Energy から取得してファームインした、カナダ企業 Frontera Energy の CEO、Richard Herbert 氏も 8 月 7 日、政治的な行き詰まりに終止符が打たれたことを受け、ガイアナ沖での掘削計画を加速させる方針を明らかにした。

また、Tullow がオペレーターを務める Orinduik 鉱区のパートナー、カナダの Eco Atlantic は 2020 年 2 月に同鉱区の想定資源量を 39.8 億 boe から 51.4 億 boe に上方修正したことを明らかにした。そして、7 月には Orinduik 鉱区で 2021 年に少なくとも探鉱井 2 坑を掘削予定であるとした。

また、その Tullow Oil は 2020 年 1 月初めに、Kanuku 鉱区で探鉱井 Carapa-1 号井を掘削(掘削長 3,290m)し、ネットペイ 4m の油層を確認した。掘削前の見通しを下回ってはいるとのことだが、API 比重 27 度、硫黄含有率 1% 未満の原油を確認したという。Tullow Oil は、同鉱区の今後の開発計画について、ガイアナとスリナムの 3 坑井から得られた結果を分析しており、これらを統合して将来の作業プログラムを決定することとしたとしている。その後 1 月末には、Tullow Oil の COO、Mark MacFarlane 氏が、同社は 2020 年にガイアナ沖で掘削を行う計画はないと表明した。同鉱区の権益保有比率はオペレーターの Repsol 37.5%、Tullow 37.5%、Total 25% となっている。

3. 新政権の探鉱・開発政策

Irfaan Ali 政権成立直後は、同政権が上流投資の誘致を目指した Granger 政権のアプローチを維持し、停滞していた上流プロジェクトの承認を進めることを優先するだろうとの見方がなされていた。しかし、現時点で、Irfaan Ali 政権の探鉱・開発政策について全体像はまだ明らかにされていない。

契約条件の変更について、PPP は総選挙前に、選挙で勝利した場合、ExxonMobil 以外の企業との契約については調査、再交渉を行うが、ExxonMobil との契約については再交渉することはないとしていた。ExxonMobil は先駆的に投資を行ってきており、リスクのあるフロンティアへの投資を確保するためには魅力的な条件が必要であることから、他の石油会社とはケースが異なるためだという。今後、ExxonMobil 以外の企業との契約条件を調整する可能性が高い。ただし、原油価格の低迷や、Stabroek 鉱区以外で発見された油田の商業開発の可能性について技術的な問題が発生する可能性もあるため、政府は契約の見直しを遅らせるか、あるいは最終的には契約条件の再交渉を行わないこ

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

とになるかもしれない。

一方で、PPP は選挙前、ExxonMobil との契約についても管理、運営を改善し、ガイアナの製品やサービスをより多く利用すべきだと指摘していた。そして、8 月下旬には、新政権が、実際に沖合石油探鉱・開発部門における雇用や物品、サービスの調達において、国内調達の要件(いわゆるローカルコンテンツ)を引き上げようとしているとの報道がなされるようになった。そして、8 月 27 日には、Ali 大統領が、ローカルコンテンツについて協議し、勧告の草案を作成するパネリストを任命した。このような状況から、国内調達比率について、その要件とガイアナの技術、物品、サービスの調達の現状とのバランスが取れなければ、探鉱・開発プロジェクトを遅らせる可能性があるとの懸念の声が出ている。

また、8 月中旬には、Vikram Bharrat 天然資源相が、Irfaan Ali 政権が同国の石油産業を監督する政府機関を再編成する可能性があるとして述べた。これまでは、大統領府の一部であるエネルギー局が、石油・ガス関連のほとんどの問題を扱ってきたが、Irfaan Ali 政権はこれを天然資源省に吸収し、天然資源省に炭化水素部門を担当させる可能性を検討しているという。新政権がこの件についていつ決定を下すかについて Vikram Bharrat 天然資源相は言及しなかった。

このような新政権の動向に対しては、米州開発銀行(IDB)が、いわゆる「オランダ病」のリスクを軽減するために設立された天然資源基金(6 月末時点の積立額:198 億ガイアナ・ドル(9,470 万ドル))が設定されてはいるが、より広範な財政的枠組みがあると好ましい、石油委員会の創設等強力な独立した規制機関が必要、また国内調達比率に関する政策を進めるための知見の構築が必要との見解を表明している。また、ガイアナの政策・リスクアナリストである Bobby Gossai 氏はカリブ評議会(Caribbean Council)が主催する講演で、天然資源基金の透明性の向上と効果的なガバナンスの必要性を強調するとともに、中流・下流を含むバリューチェーン全体を網羅するための新たな規制、法制の枠組みを提言、さらに、石油委員会や国営石油会社のような新たな機関の設立を提案した。この他にも、精製能力は世界的に過剰な状況なので、新規に製油所を建設すべきではないこと、ガソリンに補助金を出すべきではないこと、知見、経験を有する人材確保のため二重国籍者を歓迎すべきこと、天然ガスを収益化する可能性を考慮すべきこと、産油国になったからといってすぐに生活に大きく変化は生じないことを国民に理解させる必要があること、等の指摘をしている。

政府がこれらの助言を参考にして、探鉱・開発を推進して行けるのか、今後の状況を注視したい。

以 上

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。